

# 知りたい!

# 聞きたい!

# がん医療

主催/静岡新聞社・静岡放送 共催/県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館 特別協賛/スルガ銀行

静岡がんセンター公開講座2022「知りたい!聞きたい!がん医療」(静岡新聞社・静岡放送主催、県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館共催、スルガ銀行特別協賛)の第1回配信(事前登録制)がこのほど行われました。第1回は県立静岡がんセンターの山口建総長が「がん講座～患者・家族への応援歌～」、同センター患者家族支援センター長の遠藤久美氏が「がんの治療や療養生活で困ったときには?」と題し、それぞれの講演をネット配信しました。その概要をまとめました。

(企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局)



県立静岡がんセンター 総長

やまぐち けん  
**山口 建 氏**

1974年慶応大医学部卒。99年国立がんセンター(現国立がん研究センター)研究所副所長。2002年から現職。内閣府ゲノム医療協議会構成員、厚生科学審議会科学技術部会委員。研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、ゲノム医療、がんの社会学。

## がん講座 ～患者・家族への応援歌～

### 三大がんセンターの一角

本県の医療健康産業活性化を目指す「ファルマバレープロジェクト」の中核施設として当院は2002年に開設され、今年20周年を迎えました。最先端医療技術の導入とともに、包括的  
患者家族支援体制の整備を進め、今ではわが国の「三大がんセンター」の一角を担うまでに成長しました。本日は患者さんご家族にとって必要な四つの取り組みをお話しします。

まず一つ目は「高度がん医療機関の整備」です。わが国では「がん診療連携拠点病院」を定め、当院や約

400の病院が拠点病院に指定されています。その中で年間5000名以上の新規の患者さんを診ている施設が三つ。これが三大がんセンターといわれる、国立がん研究センター、がん研有明病院、そして当院です。

現在のがん治療は、患者さんの負担をなるべく抑えたい形で進んでいます。手術では、内視鏡手術やロボット支援手術など、体に負担の少ない低侵襲性手術を多く実施しています。放射線治療も、高精度の放射線治療や、ピンポイントで患部を狙う陽子線治療を行っています。

薬物治療では、分子標

的薬や免疫チェックポイント阻害剤などで治療の幅を広げ、薬剤選択のためのゲノム医療も進んでいます。さらに、薬物療法の副作用対策として支持療法にも力を入れていくほか、患者さんの苦痛を和らげ、最後の看取りを行う緩和ケアも充実させました。当院は日本最大の緩和ケア病棟50床を運営しています。

二つ目は「患者・家族支援体制の構築」です。がんの告知を行うと、恐怖や不安などの悩みが患者さんとご家族に押し寄せます。こ

### 体と心のつらさを支える

三つ目は「情報提供・広報活動」です。当院では薬を処方するように、患者さんに情報を提供する「情報処方」というコンセプトで動いています。治療に必要な情報を盛り込んだ冊子類も発行し、これを院内だけでなくどめず、全国の拠点病院にも配布し、多くの患者さんに喜ばれています。例

### 情報も積極的に「処方」

四つ目として「患者・家族の心構え」が必要です。患者さんにはがんに向き合う姿勢を保つようお願いしています。さらに、患者さんの苦しみを、ご家族は共に分かち合っていたください。これは患者さんにとって、何よりの心の癒やしになります。症状や心身の悩みなどの情報や診察日もご

## がんの治療や療養生活で困ったときには?!

### 悩みの種類と対処法

近年のがん治療は日々進歩し、治療の種類や数が増えています。長期間の治療を行いながら療養生活を送る患者さんも少なくありません。日々の暮らしの中で、患者さんやご家族はどのような悩みや負担を感じているのでしょうか。これまでの調査結果から、がん患者さんが抱える悩みや負担は大きく四つに分類されています。本日は、この四つの分類別に対処法を紹介します。

まず「診療上の悩み」です。「治療方針が分からない」「再発のショックが強く、医師の説明が頭に入ら

なかった」「今後どんな治療になるのか」「いくつか治療を提示されても、どれを選ばばいいかわからない」。そんな声が挙がっています。この場合、遠慮せず医師に再度説明を求めてください。できれば1人でなく、信頼できる人と一緒に説明を聞いてください。聞きたい点を事前にメモしたり、説明を書き留めたり、医師に確認して録音することもお勧めです。

当院を含め、がん診療連携拠点病院には、がん相談支援センターや患者家族支援センターのような支援部門が設置されています。その

な状態が詳しく伝えることで、適切な対処方法を見つけてやすくなります。病院によっては、苦痛の症状を緩和させる専門家がいますので相談してください。例えば、痛みなら緩和ケア、吐き気があって食事ができないなら栄養をサポートするケア、口内炎がひどければ、口腔外科の医師や歯科衛生士による口腔ケアなど、さまざまな専門家が患者さんの症状に合わせた対処方法で支援します。

また、副作用で肌が荒れた時には保湿クリームを塗ったり、苦痛の症状の程度や回数を観察して記録したりと、患者さんご自身やご家族ができるセルフケアもあります。いずれにしても、決して我慢せず医療スタッフに相談していただくようお願いいたします。

### 医療スタッフに苦痛相談

次は「身体の苦痛」です。がんの症状による苦痛だけでなく、治療の副作用、後遺症による苦しみもあります。この場合、苦痛があることを医療スタッフに伝える

「1人で抱え込まないで」三つ目は「気持ちのつらさ」です。がんの告知をされた時「なぜ自分がこの先どうなるのか」などの不安な気持ちはあって当然です。くれぐれも1人で悩みを抱え込まないこと。家族、友人、医療スタッフなど、

家族は把握してください。会話やメールなど、患者さんと日頃から連絡を取ることをお勧めします。最後に、心に留めていただきたい「幸せ」「優しい」「愛」という三つの文字をお伝えします。患者さんやご家族は多くのつらいことを体験します。ですが「辛い」という字に横棒を1本入れると「幸」という字に変わります。つらくてもさやさやかな癒やしがあれば、幸せが生まれます。「優」は、憂いを人が支えると書きます。「愛」は、「心」を受け止める」と読めます。どんなに苦しく、困難な時でも、ご家族は患者さんの「心」を、患者さんはご家族の「心」を受け止め、お互いに支え合うことが大切です。

**【事前登録申し込み方法】** 問い合わせ：TEL 055(962)6520

①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④性別 ⑤職業(学校名) ⑥連絡先 ⑦メールアドレスを明記し、下記の静岡新聞社・静岡放送 東部総局にお申し込みください。1回だけの受講も可。

<はがき> 〒410-8560 (住所不要) 静岡新聞社・静岡放送 東部総局「静岡がんセンター公開講座」係

<FAX> 055-951-1400 <Eメール> toubugyoumu@shizuokaonline.com ※FAXとEメールは件名に「静岡がんセンター公開講座」と記してください。

次回の配信は11月12日(土)予定です。